

驚いたな、半世紀を超える。丸七十年くらいか。  
毎日のように顔を合わせていたが、  
それっきり、ぷつぷつと消息なく。

戸田吉（トダキチ）と、ぼくたちは呼んだ。  
なにしろ正義感が強く、見て見ぬふりの出来ない性格。  
自分は正しいと自負しているので、頑固だった。  
立派な体格なのに、どうしてだか、  
自分は虐げられているのではないかと思いついて、  
常に悲劇の主人公を演じようとしていた。

1950年代、  
パリの留学生会館にお互い居住していて親しくなった。  
あれほど交歓した歲月。  
しかし戸田吉が日本に戻ってから、  
お互いさっぱりと離れた交際も珍しい。

描きなぐったような裸婦の素描や油絵。  
たどたどしい筆あと。  
土くさい彩色。  
ぼくは好きだった。

七十年たって、今見る数々の裸婦。  
ひょっこりと戸田吉が訪ねてきたのだ。  
いかにも、あの、間延びした大男らしい。  
この再会は、嬉しかった。

野見山暁治  
(洋画家／東京藝術大学名誉教授)